

特定非営利活動法人 ものづくり品川宿 事業計画書

1. 活動方針

(特非) ものづくり品川宿は、製造業の発展のために意欲あるものづくりを応援する産業支援型NPOとして、2003年2月に品川区旗の台の地で設立されました。

ものづくり品川宿は、当初より中小企業支援の一環として企業間取引の仲介を図る受発注ネット事業を進めており、主に単価、納期、品質などの条件に応じて適切な企業を発注企業に紹介、取引を仲介してきました。

このなかには開発案件に関わるものも多く、製品化に向けた課題の解決につながったものもあり、受発注ネットを通じた中小企業との関係が経営課題解決などへの密着した支援の契機ともなってきました。

また、工業製品が開発され市場に投入される過程のどの段階かによっても最適な条件は異なり、受注側にも工夫、提案が求められる場合も多く、そのため適切な企業の紹介は一朝一夕にいかないケースも多々ありましたが、我々はその都度創意工夫により取引案件を成約させてまいりました。

昨今、コロナ禍やロシア・ウクライナ戦争により国際分業や自由貿易が阻害され生産が停滞する他、生産現場では材料調達が思うに任せない状況が続いています。ものづくり品川宿では、このような状況のなかで中小企業の取引促進や課題解決の機会を増やすため、従来から取り組んでいる「受発注ネット」を拡充してまいります。なお、拡充に必要な資金の一部は支援機関などから募ることを考えております。

一方、新たな事業として「ESGに対応した中小・ベンチャー企業と上場企業等とのマッチング」や「大手企業シニア人材活用事業」さらには「新型まもるっちの開発」にも取り組んでいく計画です。

2. 事業計画

(1)受発注ネットの拡充に向けた取り組み

中小企業の取引促進に向け、特に零細企業が直面する下記の3つの課題について解決を図ります。

①希少材料の調達、在庫

ここ数年、自由貿易の脆弱性が露呈し原材料の調達難が各所で起こっています。例えば板金製品の分野では洋白(メッキ済みプリキ)の出荷が滞っておりフープ材でないと販売されない状況です。建材ではトンネルなどの壁面剥落防止用の樹脂製ラス材の調達が難しくなっており、試作を中心に仕事をしている零細企業はまとめ買いができない状況です。これらの課題を解決するために、数量が少ない材料調達が円滑になるよう、調達が難しいと予測される材料をものづくり品川宿が一時的に在庫として準備いたします。

②開発用の専用機器の貸し出し

例えばコネクタなど微小な部品の組立に汎用的に使える新しい装置がありますが、試作企業は日常的に使用する器具の購入は必要ですが、コロナ禍で資金繰りに困難を感じている企業は、たまにしか使わないが無ければ困る機材を購入することは難しい状況です。いくつかの企業からは、借りるというスタイルならば助かるという相談を受けており、この課題を解決するために、このような装置や組み立て式の汎用金型など試作品の製作に使える装置や機器を準備し、不特定の零細企業に貸し出すことを計画しています。

③仲介円滑化のための環境整備

受発注ネットを効果的に運用するために、発注者と受注者がより良い相手先と出会えるためのウェブサイトやアプリケーションの整備を促進します。

目標指標

名称	実施回数	サポート社数	合計回数
希少材料の調達、在庫	3	1	3
開発用の専用機器の貸し出し	3	1	3
仲介の環境整備	2		2

実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
材料調達			←	←	←	←	←	←	←
材料在庫提供					←	←	←	←	←
専用機器調達			←	←	←	←	←	←	←
機器貸し出し					←	←	←	←	←
ウェブサイト構築				←	←	←	←	←	←
アプリケーション開発					←	←	←	←	←

予算 1,300万円

- ・委託費 4,000,000円 (ウェブサイト・アプリ開発)
- ・材料費 3,000,000円 (希少材料の調達)
- ・外注費 4,000,000円 (専用機器の製作)
- ・管理費 2,000,000円 (従事者人件費等)

(2)ESGに対応した中小・ベンチャー企業と上場企業等のマッチング

日本の一部の上場企業では、利益は出ていてもESG対応に遅れている企業があります。世界の時流として、ESG対応が遅れた企業には、いざという時に投資家や銀行か

らの新規の投資や融資が受けられない可能性が高くなっています。一方、ESGに対応した事業を進めている中小・ベンチャー企業には、資本強化や営業の継続性に難点があります。

この二者間で、業務提携がすすめば上場企業もESG対応企業として評価され、大型融資など案件が通り易くなります。同時に中小・ベンチャー企業は上場企業のグループとして安定的に支援を受けることで、サステナブル経営が可能となり、ESG技術の発展につながられます。

そのためには、可能性のある企業を調査し、技術のデータベースをシステム化し、需要の有る企業が閲覧することを可能にし、マッチングを促進させることが有効と考えます。

目標指標

名称	実施回数	サポート社数	合計回数
ESG マッチング	4	1	4

実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
対象企業調査			←						→
マッチング				←					→

予算 200万円

- ・報償費 600,000円（専門家謝礼等）
- ・旅費交通費 100,000円（企業面談等）
- ・委託費 1,000,000円（マッチングシステム開発費等）
- ・管理費 300,000円（従事者人件費等）

(3)大手企業シニア人材活用事業

独自の製品、技術を保有し、既存のサプライチェーンからの自立化を図り、グローバルニッチトップも視野に入れた事業展開を模索するサポーティングインダストリー企業を対象として、大手企業の経験豊富なシニア人材等をマッチングし新たな事業展開を目指す支援事業を試みます。

大手企業には、営業、マーケティング、情報管理、知的財産権、開発・設計、生産技術など幅広い領域に経験豊富なシニア人材がいるが、国内での就業機会は減少しておりその経験やノウハウを活かす場が減少しています。

一方、サポーティングインダストリー企業では新たな事業展開に向けた人材確保が重要なテーマとなっており、この両者にグローバルニッチトップを目指せるような価値あ

るマッチングを提供します。

目標指標

名称	実施回数	サポート社数	合計回数
シニア人材マッチング	3	2	6

実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
シニア人材調査			←	←	←	←	←	←	←
受入企業調査			←	←	←	←	←	←	←
マッチング					①		②		③

予算 230万円

- ・ 報償費 1,200,000円（支援シニア人材謝礼）
600,000円（コーディネーター謝礼）
- ・ 旅費交通費 100,000円（企業面談等）
- ・ 管理費 400,000円（従事者人件費等）

(4) 新型まもるっちの開発

ものづくり品川宿が開発した「まもるっち」は、約20年前に音声通話機能を駆使したシステムとして開発したものです。20年が経過した現在も、このシステムのユーザーである児童の保護者からは高い評価をいただいています。このシステムを品川区のみならず他の自治体へ拡大したいと考えておりましたが、残念ながらシステムとしての評価は高くとも実際に導入にはつながっていません。

この原因は、主として自治体が負担する機器の無償供給と、通信会社との契約金の高額によるものと考えております。もちろん品川区としてもコストの削減は重要な課題といえます。

コストの削減と同時に20年前のシステムを刷新することも重要です。音声通話機能だけでなく、映像通信も加えることが重要です。状況を音声で判断するより見えることで事件性が有るかどうかの判断が正確かつ速いので、不審人物への抑止効果が高まります。また、映像を録画することで、万が一の強い証拠ともなります。

新型まもるっちの開発は、子どもの安全安心をより一層強化でき、なおかつイニシャルコストも維持経費も安く、品川区発のアイデアが全国に広く普及すると考えています。

目標指標

名称	実施回数	サポート社数	合計回数
新型まもるっちの開発	1		1

実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
機能調査			←	←	←	←	←	←	←
試作品開発			←	←	←	←	←	←	←
ソフトウェア開発			←	←	←	←	←	←	←

予算 650万円

- ・報償費 500,000円（機能調査謝礼）
- ・委託費 2,000,000円（システムプログラム開発等）
- ・外注費 3,000,000円（試作品開発）
- ・管理費 1,000,000円（従事者人件費等）

3. 一般財団法人新事業創生機構の事業活動支援

（特非）ものづくり品川宿は、平成23年3月に（一財）品川ビジネスクラブを設立した際のノウハウを活かし、（一財）新事業創生機構の新規開設にも深く関わってきた。経済厚生を向上し経済発展に寄与する企業者の活動を支援し新事業の創生の促進を目的として活動を行う新事業創生機構と事業連携することで、これまで行ってきた中小企業の取引拡大支援策のさらなる充実と発展が見込めるため、必要な支援を行う。

予算 1,000万円（事業費）

4. 運営体制

